

## さぬき市総合計画審議会 第3回会議要旨

1 日 時 平成23年12月8日(木) 9:30~11:44

2 場 所 さぬき市役所3階302会議室

3 出席者 [委員] 中島 中山 江崎 十川  
田村 小野 森安 千田

[事務局] 安富総務部長 向井政策課長 山下主幹

[傍聴] 無

4 議 題 さぬき市総合計画後期基本計画素案について

5 資 料 資料9 さぬき市総合計画後期基本計画素案

資料10 前期・後期基本計画対照表

6 会議の内容は次のとおりである。

### (1) 会長のあいさつ

- 自治体の守備範囲が広いことを再認識するとともに、これを全て実施することの難しさを感じている。
- 具体的数字を示して現状と課題を素案で示し、取組内容や目標値をまとめていることに敬意を表したい。
- 十分な協議をする時間の確保は難しいが、限られた時間の中で市長への答申に向け、3回目の会議を開催する。

### (2) 総務部長のあいさつ

- いろいろな考え方がある中で、全てのことを計画に示すことは、難しいものがあるけれど、その中で調整できるものは可能な限り調整して計画に盛り込みたい。
- 委員の率直な意見をお聴きし、また、パブリックコメントを通じて市民の方の意見もお聴きして、より良い計画にしたい。

### (3) 市の説明概要

#### 【全般】

- 後期基本計画の計画期間は、前期基本計画の計画期間が平成23年度で終わることから、平成24年度から平成26年度とする。
- 素案は、庁内会議においても協議しているところであり、各部署と、さまざまな意見を踏まえ、また、さらに精査を促し、調整をする。
- 1月に市民の意見提出の機会を設ける。
- 素案は平成24年1月末を目途にとりまとめをする。

#### 【基本施策1 活力ある産業基盤と地域づくり】

- 基本施策を「活力ある産業基盤づくり」から「活力ある産業基盤と地域づくり」に変更した。人口減少が著しいことから「定住者を増やす」ということを基本戦

略に新たに設けたことによる変更である。

**【施策2 未来につながる行政経営を推進するまちづくり】**

- 基本施策を「行政改革による健全な財政基盤づくり」から「未来につながる行政経営を推進するまちづくり」に変えた。これは、収入確保や歳出抑制といった行財政の改革だけでなく、市民目線に立った事務改善や市民サービスの向上を掲げたことによる変更である。

**【施策3 暮らしを支える安心快適なまちづくり】**

- 「道路・橋梁、河川・海岸及び港湾」「交通手段」「上水道」「公園・緑地」「墓地・斎場」「住宅」「土地利用」のテーマごとに整理した。
- インターネットの普及に伴い、架空請求、振り込め詐欺、悪徳商法、安全性などが社会問題となっており、安心できる消費活動を推進する必要があることから、戦略として新たに設定した。
- 「住宅」に関する取組は、市営住宅に関するものであったが、民間住宅の耐震化などをテーマとして、住み良く安全な住環境づくりを推進することとした。

**【基本施策4 市民が主体のまちづくり】**

- 基本戦略の「コミュニティ組織を活性化させる」「市民と行政の協働を進める」を「地域コミュニティを活性化する」「市民参加の促進」「新しい公共のしくみづくり」に変更した。

**【基本施策5 情報と交流連携のまちづくり】**

- 基本戦略の「情報体制を充実する」「体外的な市民交流を活発にする」を「情報基盤の整備と市の情報の効果的発信」「豊かな観光資源と市の魅力をアピールして観光を振興する」「交流事業を推進する」に変更した。
- 観光において「四国88か所上がり3か寺と遍路道の活用」、文化において「遍路道の整備と資料展示の充実」を掲げ、四国全体で取り組む世界遺産登録の推進と共に、本市の資源の活用や保存を図る。

**【基本施策6 健康な心身と思いやりをはぐくむ健康・福祉のまちづくり】**

- 平成24年1月末に新しい市民病院での診療開始に伴い、「新市民病院を核として、いつでも安心して医療が受けられる体制を整える」を戦略とした。
- 増加傾向にある生活保護世帯の自立を支援することを戦略とした。
- 社会保障制度の健全な運営を戦略とした。

**【基本施策7 主体性・創造性・生きがいをはぐくむ教育・文化のまちづくり】**

- 学校や幼稚園の規模の適正化と再編、老朽化した校舎、体育館の改修整備や耐震補強工事等が必要なことから、さぬき市学校再編計画を基本としてその実施を進めることが課題になっている。

**【基本施策8 自然環境保全と環境に配慮したまちづくり】**

- 基本戦略の「自然と緑を守る」「資源循環を進める」「エネルギー循環を進める」

「環境を守る」を「環境の保全」「生活排水の適正処理」「自然循環と省エネルギーにより環境負荷を低減する」に変更して整理した。

#### (4) 委員の主な意見

##### 【全般】

- 「成果の指標」について、事業所数は減少しているのに、目標が増加しているのは、主体的、責任ある計画となっていないのではないか。
- 素案のまとめ方は、これでよい。
- 4ページに「徳島文理大学の協力を得た産官学連携による技術支援のほか」とあり、産業だけでなく、文化、健康など幅広く産官学連携を進める必要がある。
- 用字、用語に誤りがあるので精査されたい。

##### 【基本施策1 活力ある産業基盤と地域づくり】

- ハマチ、牡蠣、自然薯などブランド化をして、販売促進を図ることは重要である。
- さぬき市に住みたいという時に借家等の情報がないので、市が情報を提供すると安心感があって定住促進ができるのではないか。  
徳島県神山町のホームページの交流サイトはわかりやすいので参考になる。
- IT企業が進出しやすい環境を整える必要がある。
- 企業誘致に関しては、「ヒト、モノ、カネ」と言われた。  
今は、これに「情報」が加わって、順番も変わっている。  
こうした認識が遅れているように思う。
- 特産品の開発について、市民活動団体と組んで販売につなげるという取組を推進してはどうか。
- 特産品の開発販売で、食べ物となると、保健所の手続きをとる必要がある。
- 企業誘致をすることは、社会経済情勢から難しい。
- 大企業の誘致は、多くの雇用を必要とし、雇用、通勤資源として香川県は充足できる環境にないことが課題だ。

##### 【基本施策2 未来につながる行政経営を推進するまちづくり】

- ふるさと納税についての、具体的働きかけ、PRは、もっと積極的に推進するべきである。  
友人にPRしているし、多くの人にさぬき市を応援してほしい。
- 未収金対策については、市民の公平感を育むうえで積極的な取組が必要である。
- 市政の運営は、メリハリのある展開をお願いする。
- 職員の意識改革は必要であるが、市民の意識改革も必要である。  
それぞれができることを行い、みんなでさぬき市を盛り上げるということが求められている。
- いろいろな障害を持った方がいて、職員が健常者であることを前提に対応をすると

誤解が生じる原因となる。

いろんな状況に応じた対応ができるようにしていただきたい。

- 市民アンケートで「職員の意識改革」の市民満足度が低いので、どのような取組をしているのかPRをする必要がある。
- 職員の定員管理について、退職者が多い、新規採用者が少ない時がある。持続性のある組織にするためには、各年代のバランスのとれた構成にするべきだ。

#### 【基本施策4 市民が主体のまちづくり】

- 市場原理は、お金のあるところから必要とするところへ回すことである。政府は、かつては、お金を配分していたけれども、最近では、お金を用意して、取りに来るのを待っているという状況に変化している。大学、民間、ボランティアが工夫して取りに行くという算段をすることが求められていて、その間に立つのが自治体であるという構図になっている。こうした状況をうまく利用しなければならない。こうした構図は、政府だけでなく、自治体においても同じような状況になっている。
- 市民、地域、NPOは待つだけでなく、自治体にまかせるのではなく、主体になって実施することが、さぬき市の発展に必要な時代になっている。
- 本市のボランティアの担い手は60代以上の市民である。若い人にも参加を呼びかけることが必要だ。
- 高松市がコミュニティセンターを中心とした地域づくりをしている。本市も参考にしようか。

#### 【基本施策5 情報と交流連携のまちづくり】

- 四国八十八か所上がり3か寺と遍路道の活用について、平泉を訪問した時に新たな整備を先行して多くやりすぎて、世界遺産登録で問題になっているということを聞いた。整備だけでなく、残すべきものは保存するという取組みも必要である。
- 本市の情報化は遅れていて、東かがわ市は進んでいる。
- IT化のインフラ整備は大変な費用が必要になる。どうやってIT化を進めるかということは、例えば研究会を立ち上げるなどして、それぞれの関係者が分担して進めることが求められている。

#### 【基本施策6 健康な心身と思いやりをはぐくむ健康・福祉のまちづくり】

- 「民生委員」という表記は、「民生委員児童委員」に改めてください。

#### 【基本施策7 主体性・創造性・生きがいをはぐくむ教育・文化のまちづくり】

- 文化祭は、関係者が作品展示を見に来て、広がりがないように思われるので、工夫やPRをする必要がある。